

滞在そのものが日本文化体験と リピーターも多い

行燈旅館

山谷の隣の三ノ輪地区に二〇〇三年に
開業した行燈旅館。名前は江戸時代の

「有明行燈」に由来しており、夜には中
からの明かりで照らされ、その名のお



り、建物全体が行燈のように暖かくほ
明るい光を放っている。落ち着いた和の

雰囲気と現代的な雰囲気がかき混ぜられ
た建物は、早稲田大学の入江正之教授
らの設計によるもので、昨年の日本建築
学会作品選奨に選ばれている。

館内には、オーナーの帰山敏子さんが
趣味で集めた本物のアンティークが至る
ところに飾られており、朝食に出す食器
にも、帰山さんがのみの市などで買い集
めた古食器が使われている。毎月三回五
〇〇円で茶の湯の会も開かれている。

二四室ある部屋はすべて和室のダブル
かツイン。シャワーや貸切のジャグジー
バスもある。料金は一部屋八一九〇円。
朝食も希望すれば取れるが、それも三〇
〇円から五〇〇円という安さである。
「海外旅行が好きで外国にもお友達が多
いのですが、『日本に来て』と言っても、

『高いんですよ』となかなか来てもら
えない。それならできるだけ安い料金
で、滞在することを通じて日本の文化に
触れてもらえようという宿を自分でつくろ
うと思ったんです」と帰山さんは話す。

「小さな宿ならではの親身なお世話を
したい」という帰山さんは、うかがった
ときにも、「相撲が見たい」というフラ
ンス人の宿泊客の質問に、相撲部屋に電
話をしたりして丁寧に答えていた。

広報は、ウェルカム・イン予約センタ
ーへの加盟とホームページのみだが、口
コミで人気が広がり、現在はほぼ満室。
リピーターも多く、特にハイシーズンに
は日本に来てからの予約は難しい状態だ
がある。

宿泊客の主流は欧米や台湾、香港、シ



館内を歩くだけで日本文化が楽しめる。写真は
名前の由来にもなった江戸時代の「有明行燈」

ンガポールなどの夫婦や家族連れなど。
国内でも評判が広まって、地方在住の外
国人が東京観光の際に泊まりに来たりし
ている。

実際に東京に来た外国人が驚くのは、
その広さと安全さである。帰山さんは
話す。「新宿や渋谷、上野など、それぞ
れ特徴のある繁華街がいくつもあって、
ひとつひとつが大きい。とても一日では
見きれません。しかも、公共の交通網が
発達していて、夜女性一人で歩いても安
心して帰って来られる町なんて、世界中
探してもそうないと思います。そういう
他にない東京の良さを海外に広報すれ
ば、外国人観光客も多くなるとしていま
す。後は、主要な場所を夜中まで回るナ
イトバスができたら、大きくて安全な東
京を、もっと外国人の方に楽しんでもた
だけるんじゃないかと思えますね。」

(「国際人流」編集部)

★行燈旅館 (ANDON)

所在地 東京都台東区日本堤

2-34-10

※最寄り駅は、地下鉄日比谷線三ノ

輪駅

TEL 03-3873-8611

http://www.andon.co.jp



帰山敏子さん



行燈旅館は「ロンリー・プラネット」誌著者推薦の
東京の5軒に選ばれている